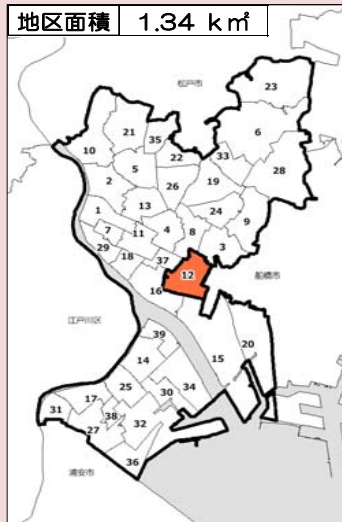


12 鬼高小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

鬼高小学校区は、市の中央部に位置し、地区内を真間川が横断しています。また、地区の東側に船橋市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、氾濫平野及び後背湿地で構成されています。地区の北側は第一種住居地域等の住宅地となっており、南側は工業地域で工場が建ち並んでいます。また、大型商業施設のコルトンプラザ、県立現代産業科学館、生涯学習センター等が隣接して立地し、市民の憩いの場となっています。

◆都市基盤

地区内の西側の一部は、土地区画整理事業により整備された。地区の南側には京葉道路が通り、市川ICが立地している。東西にかけて県道283号線（産業道路）、西側に都市計画道路3・4・18号が通っています。また、地区の中央にはJR総武本線が通っており、地区外の北東側に下総中山駅が近接しています。北側には京成本線も通っており、鬼越駅がある。地区内には、JRB八幡駅行きの京成バスも通っています。

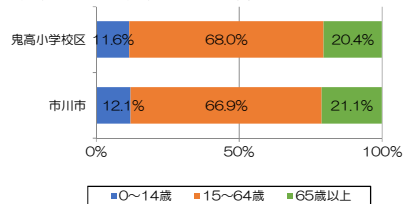
(3) 人口・建物概況

◆人口

年齢別割合	鬼高小学校区	市川市	割合※
人口総数	18,293人	487,621人	3.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,503人
平均値：39地区の平均値を示しています。	



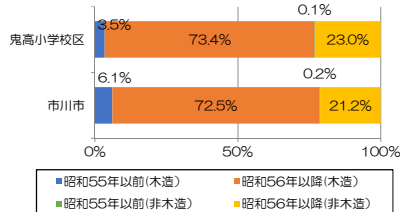
地区の人口は、全地区の平均人口より多いです。また、市全体と比較すると15～64歳の割合がやや高く、若い世代がやや多い地区となっています。

◆建物

構造別割合	鬼高小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,309 棟	114,958 棟	2.9%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,948棟
平均値：39地区の平均値を示しています。	



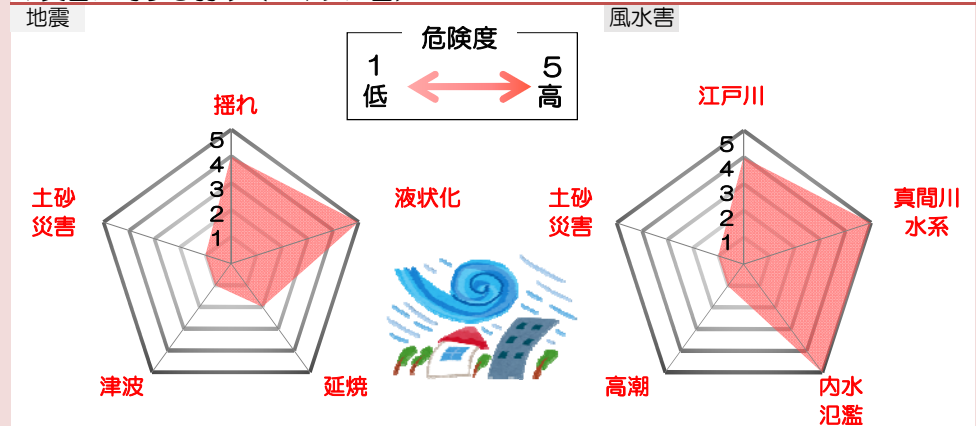
地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

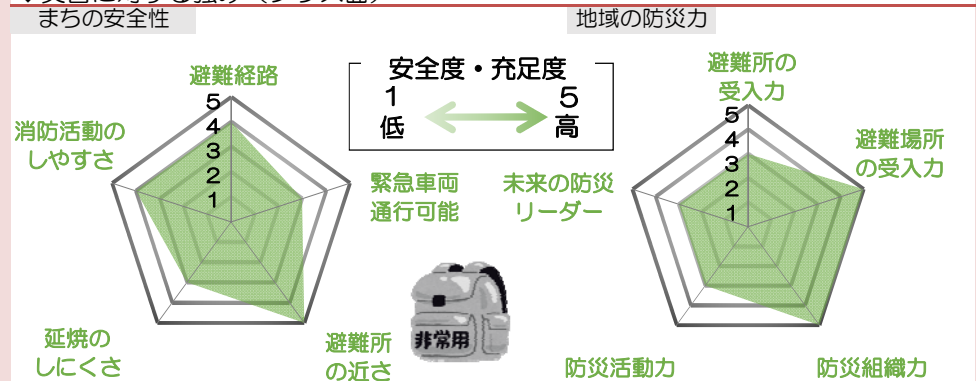
市川市防災カルテ < 鬼高小学校区 >

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

鬼高小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、揺れや液状化による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、地区内に真間川が流れていることから、真間川の氾濫による危険性が高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難所の近さが高い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難場所の受入力及び防災活動力は高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
鬼高小学校	-		
第六中学校	-		
鬼高公民館	-		
勤労福祉センター本館	-		

◆避難場所

名称
鬼高小学校
第六中学校
鬼高公民館
勤労福祉センター本館
ニッケコルトンプラザ
地方卸売市場
県立現代産業科学館駐車場

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	鬼高保育園		医療救護所	鬼高小学校
	中央こども館		関連施設	市川警察署
	南八幡こども館		-	-
			-	-
			-	-

要配慮者利用施設（民設）

11



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	鬼高小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	3.6%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	16.6%	16.0%
	焼失棟数の割合	2.2%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	0.8%	0.9%
	避難者の割合	7.3%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	鬼高小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	86.8%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	28.7%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	37.1%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、液状化の影響もあり、建物被害はやや多い傾向となっています。また、人的被害については、死者及び負傷者、避難者はほぼ同程度となっています。

一方で、風水害については、江戸川や真間川の氾濫による影響が大きく、低地であることから内水氾濫の影響も大きくなっており、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

(7) 防災上の課題

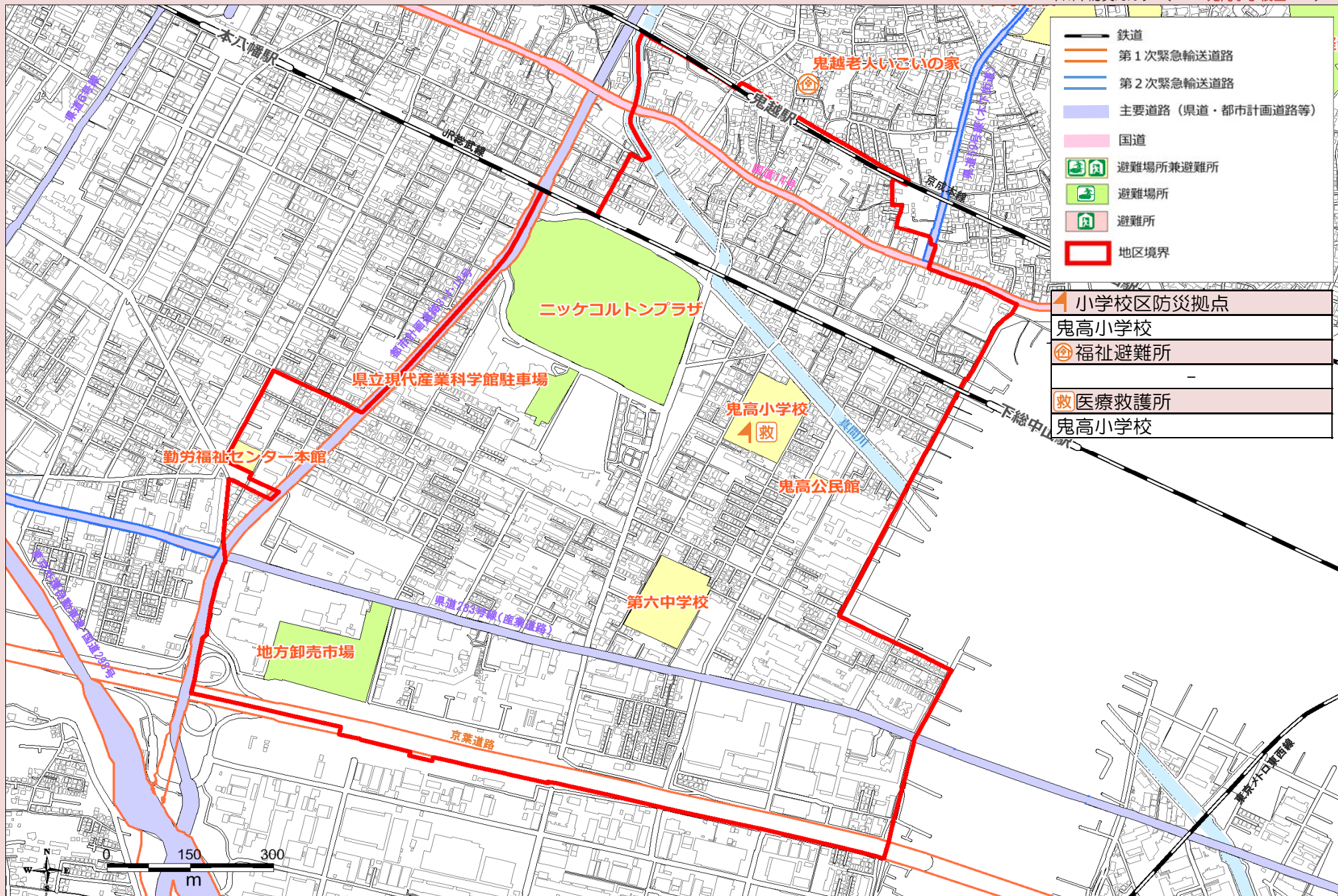
項目	課題
地震	地区全域において、最大震度6弱の揺れが予測され、揺れや液状化による危険性が高いことから、耐震対策や家庭での備蓄対策が重要です。
風水害	地区内に、真間川が流れていることによる浸水被害、また、低地であることから内水氾濫による浸水被害の恐れもあります。過去には道路冠水及び床上・床下浸水が発生していることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が見受けられることから、避難ルート等の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では、防災組織力が高い傾向を示していることから、防災組織力の強みを活かし、さらに防災活動に取り組んでいくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路があるところもあり、避難ルートや緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。 江戸川及び真間川氾濫、内水氾濫による浸水が想定されることから、洪水時の避難場所等も確認し、あらかじめ避難する場所について地区の中で情報共有を行うことが重要です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなど対策が効果的です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「家具の転落防止」を利用した家具の固定、家庭内での水や食糧の備蓄をするなど、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

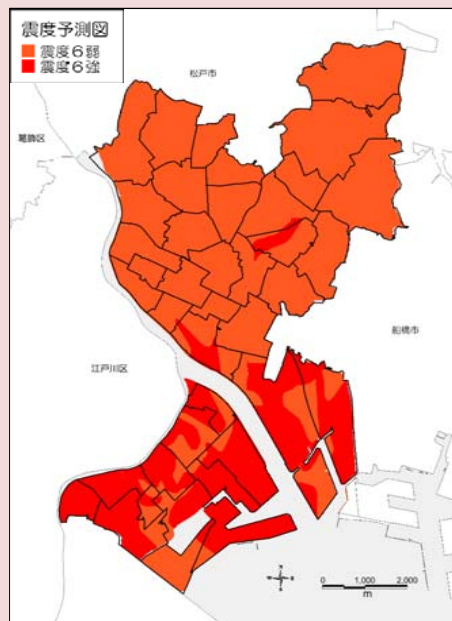
(9) 防災マップ

市川市防災カルテ < 鬼高小学校区 >



(10) 基礎資料

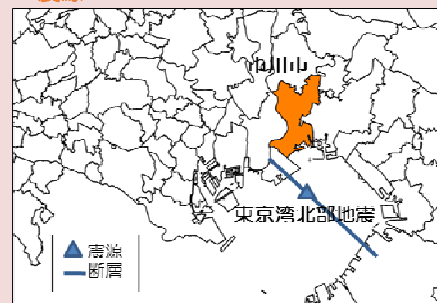
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

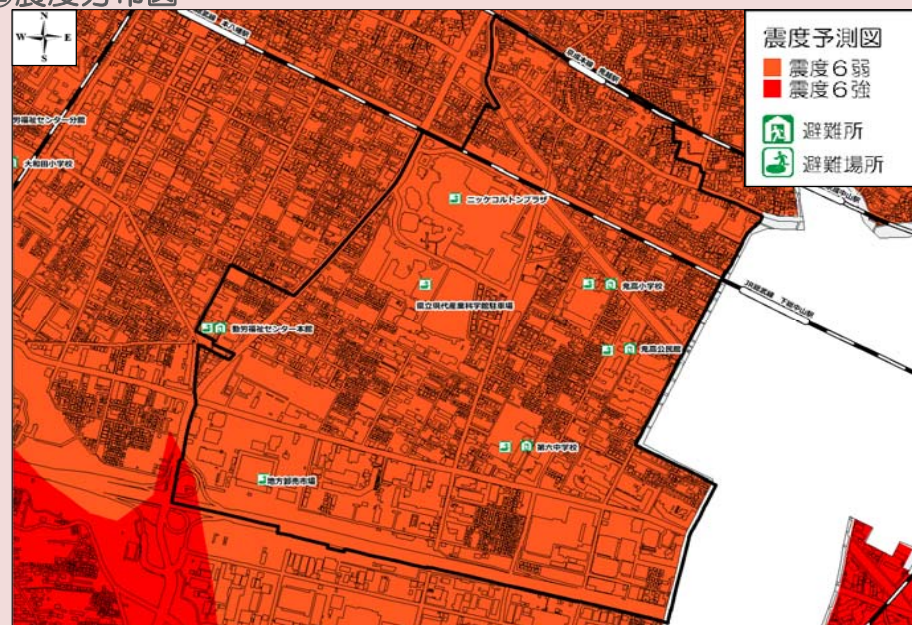
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

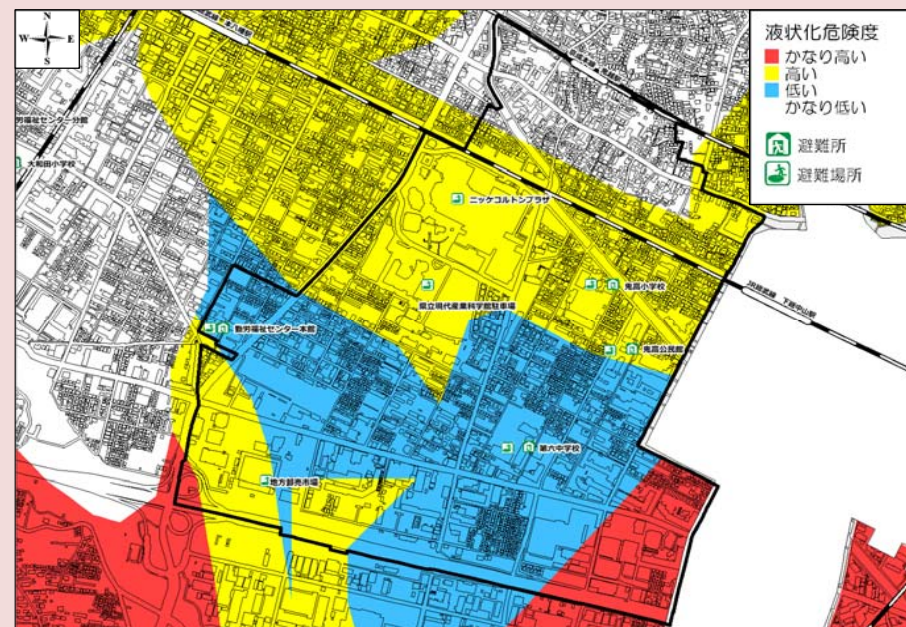


※本結果は市川市地震被害想定結果(平成24年度)に基づいています。

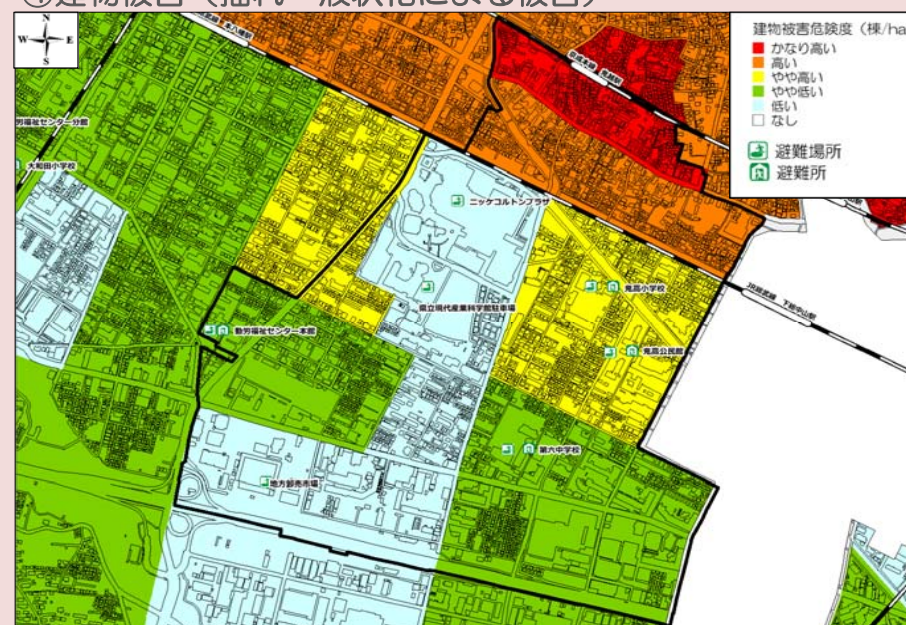
②震度分布図



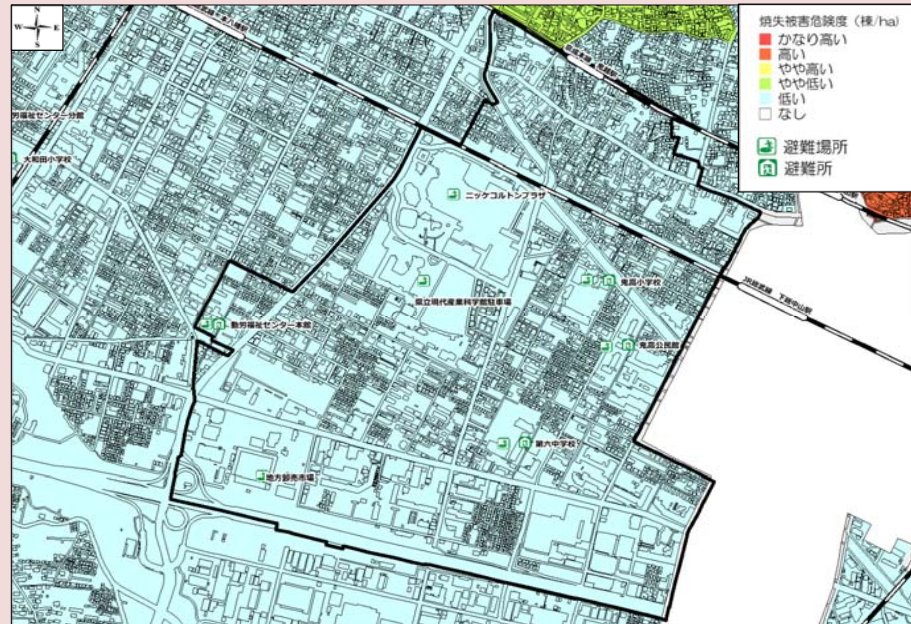
③液状化危険度



④建物被害(揺れ・液状化による被害)



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川
の氾濫、内水の氾濫、高潮
による浸水想定区域を示し
ています。

災害時にすばやく避難でき
るようにあらかじめ近隣の
避難所及び避難場所につい
て確認しましょう。

また、避難経路上の浸水
状況も確認しておきましょ
う。

水の深さ

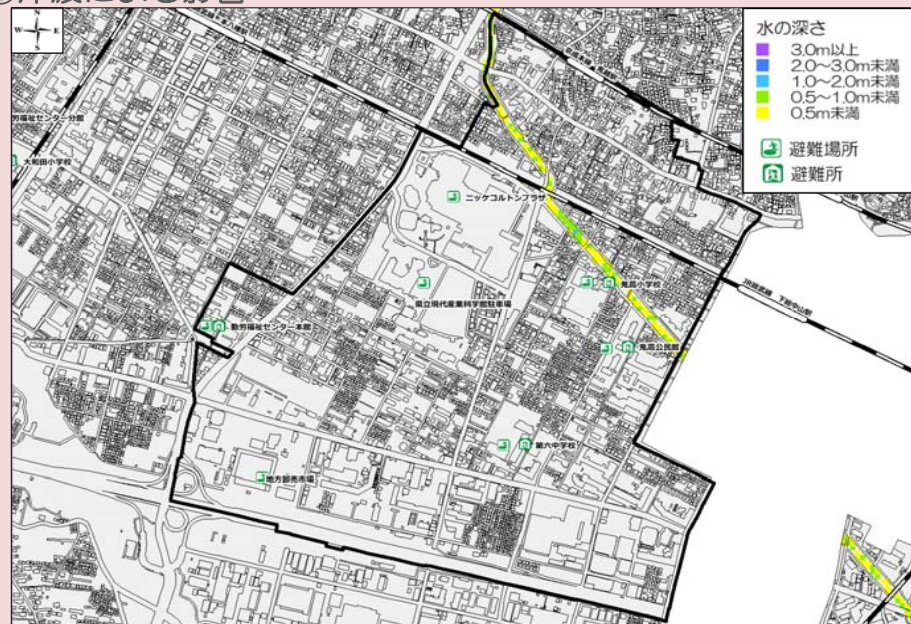
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で
任意に設定しています。

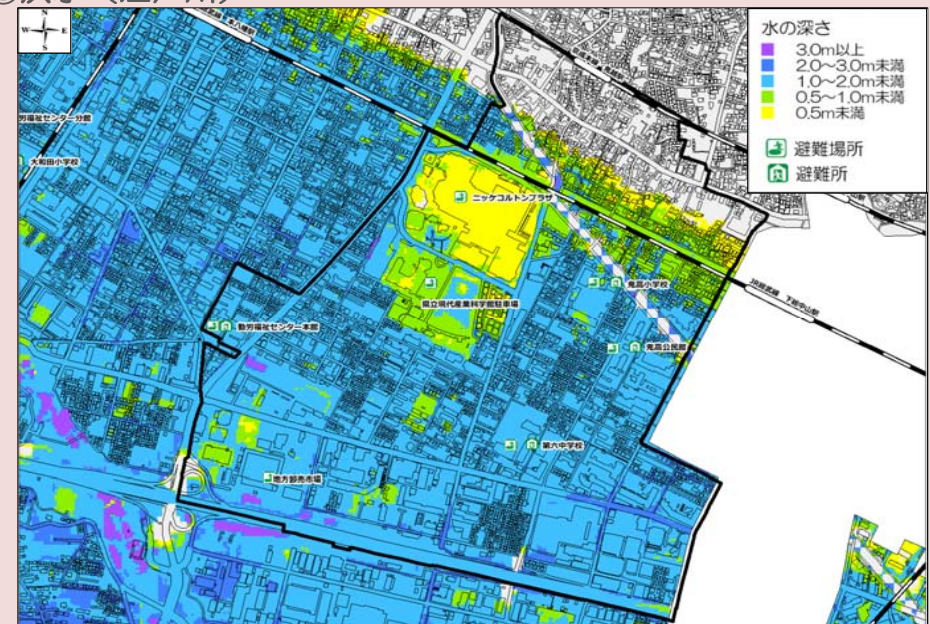
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

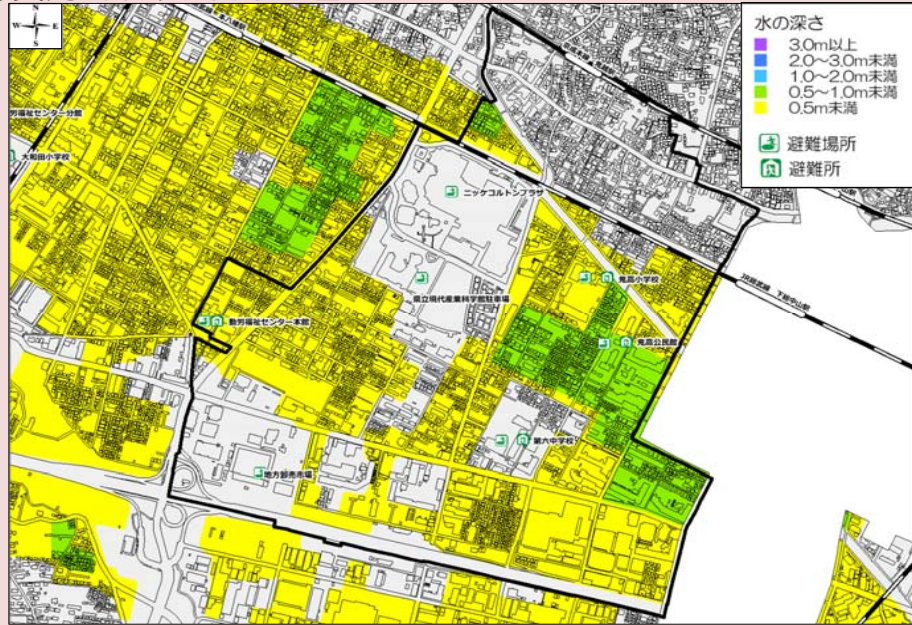
⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

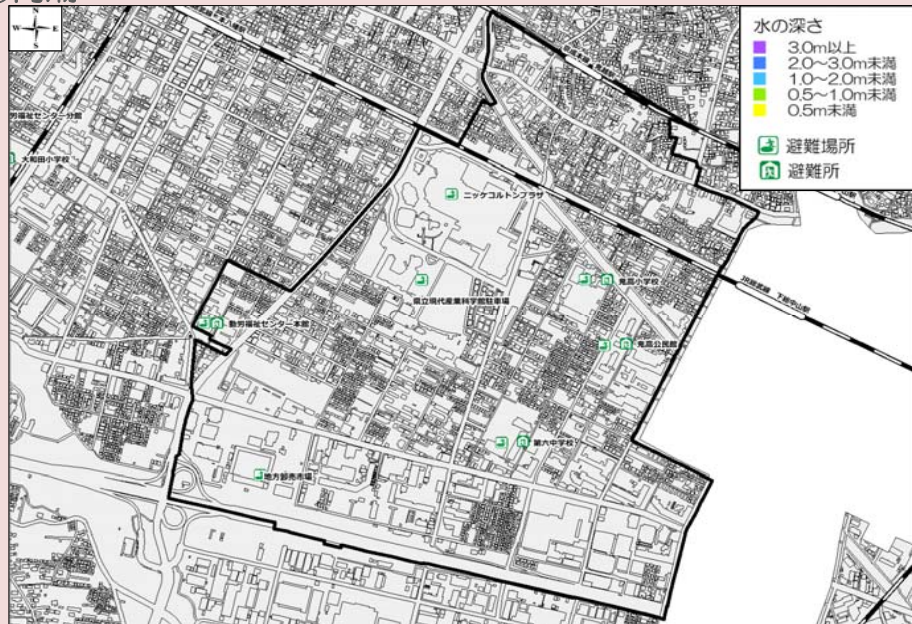
◆メモ

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

